

**NIKKE**  
Group

ニッケグループ  
**環境報告書**  
2009

人と地球に「やさしく、あったかい」  
企業グループをめざして



# ニッケグループの概要

ニッケは1896年の創業以来、ウールの総合メーカーとして日本繊維産業の発展に寄与するとともに、“ウールのニッケ”として高い評価を得てきました。現在では繊維事業にとどまらない多角的な事業を展開し、ニッケグループを形成しています。ニッケグループは共通の経営理念・経営方針で統一された事業複合体として、さまざまな分野で商品やサービスを提供しています。

## 会社概要

社名	日本毛織株式会社
所在地	大阪市中央区瓦町三丁目3番10号
設立	1896年(明治29年)12月3日
代表者	取締役社長 降井 利光
資本金	6,465百万円
売上高	連結1,016.7億円 単独418.1億円
従業員	連結4,379人 単独706人 ※2008年11月現在
連結グループ情報	連結グループ会社45社 ※2008年11月現在

## 主な連結グループ会社

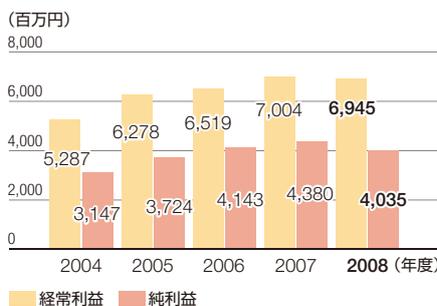
**繊維事業**  
 アカツキ商事(株)、アンビック(株)、揖斐ウール(株)、金屋ニット(株)、江陰日毛紡績有限公司、江陰安碧克特殊紡織品有限公司、佐藤産業(株)、大成毛織(株)、(株)中日毛織、青島日毛織物有限公司、青島日毛紡績有限公司、(株)ナカヒロ、日毛(上海)貿易有限公司、日誠毛織(株)、尾州ウール(株)、弥富ウール(株) など22社 (50音順。太字は環境パフォーマンスデータの報告対象事業所)

**非繊維事業**  
 (株)アルファニッケ、(株)ゴーセン、(株)ジーシーシー、(株)システム開発、双洋貿易(株)、(株)テクシオ、(株)ニッケ・アミューズメント、(株)ニッケ・インテアテニス、(株)ニッケ機械製作所、(株)ニッケ・ケアサービス、(株)ニッケ・コルトンサービス、ニッケ不動産(株)、ニッケペットケア(株)、(株)ニッケレジャーサービス など23社 (50音順。太字は環境パフォーマンスデータの報告対象事業所)

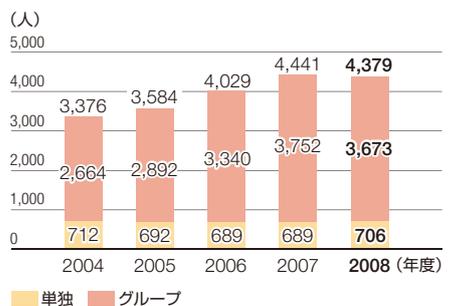
## 連結売上高



## 連結利益



## 従業員数



## ニッケグループの事業別売上構成比(2008年度)

### 非繊維事業

381.9億円(37.6%)

ショッピングセンターの賃貸事業、ゴルフ・テニス・乗馬などのスポーツ事業、馬具・乗馬・ペット用品の製造・販売、携帯電話の販売、介護サービス事業、不動産の建設・販売・賃貸、産業用機械の製造・販売、電子・電気計測器、制御装置の製造・販売、テニス・バドミントンラケット、釣糸、産業資材の製造・販売



### 繊維事業

634.8億円(62.4%)

毛糸・毛織物・縫製品・毛布・カーペット・不織布・フェルトなどの繊維製品の製造・販売



## 主な企業情報と入手先

企業情報 会社案内、有価証券報告書、ニッケレポート(事業報告書)、IR資料、環境報告書  
 入手先 ニッケ 経営戦略センター 法務IR広報室  
 Tel.06(6205)6600 Fax.06(6205)6684  
 E-mail : webmaster@nikke.co.jp

## 企業情報のお問い合わせ先

企業情報の入手先と同じく「法務IR広報室」へお問い合わせください。ご意見・ご質問は、連絡先をお聞きしたうえで関係部署から返答いたします。(返答は後日になる場合もあります)

# 編集方針と報告対象範囲

## 編集方針

本報告書は、ニッケグループの環境・社会活動について、2008年度の取り組みと実績、今後の計画を報告するものです。

報告書の発行は本年度で5回目となり、環境パフォーマンスデータについては、国内繊維事業製造部門に加え、ショッピングセンター部門についても報告を開始しました。また準拠するガイドラインを、環境省「環境報告ガイドライン」2003年版から2007年版に変更して作成しました。

## 報告対象組織

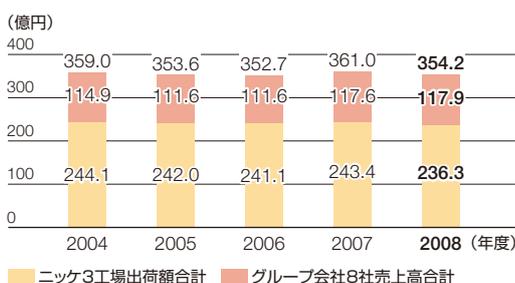
### ● 環境パフォーマンスデータ

ニッケ事業所13カ所(製造拠点3カ所・オフィス8カ所・ショッピングセンター2カ所)、グループ8社。(詳細は8ページに掲載しました)

連結対象組織における報告対象組織の捕捉率は約60%です。これは国内エネルギーデータをもとに、事業規模から推測したのですが、捕捉率の精度向上のため、今後、より広い範囲でエネルギーデータの収集に努めます。

### ● パフォーマンスデータにおける金額原単位の指標

工場出荷額および報告対象グループ会社売上高



### ● 環境マネジメントおよび環境保全活動の取り組み

ニッケグループとしての取り組みおよび各社の活動を報告しました。

### ● 社会的取り組み

ニッケグループとしての取り組みを報告しました。

## 報告対象期間

2008年度(2007年12月1日~2008年11月30日)

## 期間中に発生した重要な変化

期間中における組織構造や株主構成、製品・サービスなどの重要な変化はありません。なお2009年度からは、本社機構と事業部を大幅に再編して業務を進めています。

## 発行日および前回発行日と次回予定

発行日:2009年2月26日

前回発行日:2008年2月27日 次回発行予定:2010年2月

## 準拠したガイドライン

環境省「環境報告ガイドライン」(2007年版)

## 作成部署・連絡先

ニッケ 研究開発センター 環境・知財管理室

大阪市中央区瓦町三丁目3番10号

Tel.06(6205)6658 Fax.06(6205)6653

# 目次

ニッケグループの概要	1
編集方針と報告対象範囲/目次	2
トップメッセージ	3
経営の基本姿勢/環境に関する基本姿勢	4

環境経営の取り組み	5
-----------	---

## 国内繊維事業における環境保全活動

環境負荷の全体像	7
2008年度の実績と次期環境保全中期計画	8
地球温暖化防止の取り組み	9
省資源・リサイクルの取り組み	10
化学物質の削減と管理	11
大気や水などの汚染防止	12
グリーン購入の取り組み/オフィスでの取り組み	13

## ショッピングセンター事業における環境保全活動

ショッピングセンター運営での取り組み	14
--------------------	----

## 繊維製品と環境との関わり

環境に配慮した製品	15
-----------	----

## ニッケグループの社会的取り組み

コーポレート・ガバナンス	17
製品責任および安全	18
働きやすい職場づくり	19
社会貢献活動	20

## ニッケグループ各社の取り組み

ニッケ	21
衣料繊維製品部門	22
繊維資材製品部門	23
生活関連部門/不動産部門/エンジニアリング部門	24
海外事業所	25

サイト別パフォーマンスデータ/ 「環境報告ガイドライン」(2007年版)との対照表/ 編集後記	26
---	----

### <将来に関する予測・予想・計画について>

本報告書には、ニッケおよびニッケグループの将来に関する予測・予想・計画なども掲載しています。これらは記述した時点で入手できた情報に基づいた仮定ないし判断であり、不確実性が含まれています。従って、将来の事業活動の結果や将来に惹起する事象が、本冊子に記載した予測・予想・計画と異なったものになる可能性があります。

# 「日本毛織」から「ニッケ」へ

美しい地球を守るため、環境保全に取り組み、信頼される企業をめざして



## 人と地球に「やさしく、あったかい」企業グループとして

美しい地球を次世代に引き継ぐことは、私たちに課せられた使命であり、責任です。

ニッケは創業以来110年余、ウールの総合メーカーとして、環境にやさしい天然素材を社会に提供してきました。地球環境保全を企業経営における優先課題と位置づけ、経営理念にも“人と地球に「やさしく、あったかい」企業グループ”との言葉を盛り込み、環境保全活動に取り組んでいます。

現在の世界経済は、米国のサブプライムローン問題を機に世界中に金融不安が広がり、实体经济にも大きな影響を与えています。しかし先行きは不透明で予断を許さない状況となっています。しかし2008年夏に開催された洞爺湖サミットで気候変動が重要なテーマとなり、また京都議定書の第一約束期間が始まったように、地球環境保全の取り組みは、まさに待ったなしの課題であり、国を挙げた対応が必要となっています。中でもCO<sub>2</sub>削減は、あらゆる企業で重要な課題となっているところです。

ニッケは、1993年に「地球環境委員会」を設置して環境保全の取り組みを開始し、2006年に制定した「環境保全中期計画」に対しましては、2008年度は、数値目標を掲げて取り組んだ5項目について、そのすべてを達成することができました。

また、環境保全活動の基盤として、環境マネジメントシステム「ISO14001」の認証取得を推進しています。2008年は、海

外グループ会社・青島日毛紡織有限公司が認証取得し、ニッケの全製造事業所(3カ所)と9グループ会社へと広がりました。

2009年度からは、環境・知財管理室を設置して体制を整備するとともに、新たな環境保全中期計画のもとで活動の維持・向上に努めていきます。

ニッケの事業が衣料素材だけでなく、インテリア資材、産業用資材、エンジニアリングへと拡大する中であっても、製品の企画・開発段階から使用・消費、廃棄段階までの事業活動全体を通じ、地球環境への影響を考慮した事業を展開していこうとしています。今後は、地域に根ざした事業を展開する生活関連分野でも、環境保全活動の推進に力を注ぎたいと考えています。

## 企業価値を高めることで、地球と社会に貢献

企業が社会の中で存立するためには、事業活動を通じたさまざまな責任を果たすことが大切です。そのためには、「製品の安全」を確保することはもちろん、事業と企業の質を不断に向上させなければなりません。ニッケでは、企業倫理の確立を図ると同時に、内部統制、リスク管理、人材育成に対する取り組みなどを強化し、企業価値を高めていきたいと考えています。

2008年6月、グループ全体のシンボルとして通称社名「ニッケ(NIKKE)」を採用しました。繊維本業の歴史を忘れないために「日本毛織」の正式名称は残しているものの、繊維本業から事業複合体企業へと変革を進める中で、グループ全体の求心力となるよう、また統一したグループイメージの定着を図るために採用した通称社名です。

本報告書は、2008年度に推進したニッケの環境保全活動および社会的責任への取り組みの概要をまとめた5回目の報告書となります。環境保全活動のデータは、ニッケグループのおおよそ6割を集約していますが、今後、対象組織を拡大していくことも課題の一つと考えます。

本報告書をご覧いただき、ニッケの取り組みをご理解いただくとともに、皆様から忌憚のないご意見をお寄せいただきますようお願い申し上げます。

2009年2月

ニッケグループ 代表  
取締役社長

降井 利光

## 経営の基本姿勢

### 経営理念

“人と地球に「やさしく、あったかい」企業グループとして、わたしたちは情熱と誇りをもってチャレンジして行きます。”

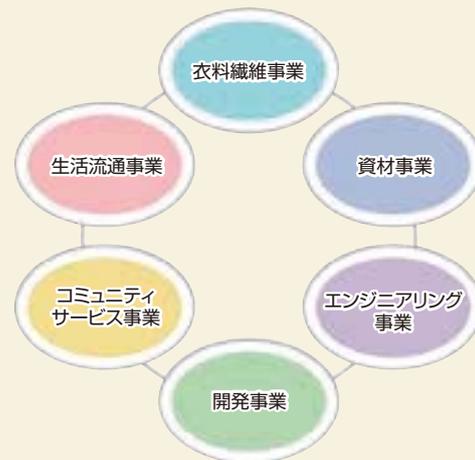
- ウールで培った技術の追求と環境への配慮により、新しい価値を創造します。
- 心を込めて人間家族や地域社会に貢献し、たしかな生活文化を創造します。

### 経営方針

- 社員の幸せを追求し、希望と生きがいの持てる企業グループを目指します。
- 企業価値の最大化を通して、顧客や株主との永続的な信頼関係を築きます。
- 研究開発を強化し、品質と感性・革新性に根ざしたNo.1の商品とサービスを提供します。
- 変化をチャンスと捉え、既存事業の改革と新規事業の開拓に挑戦します。
- 人材開発を重視し、各分野におけるプロフェッショナルとして行動します。

### ニッケグループがめざす方向性

ニッケグループの事業を経営の基本戦略が共通する単位で6つの事業領域に区分します。全ての事業は等しく成長の可能性を持つものと認識し、全ての事業を「本業」と位置付けて成長発展をめざします。ディビジョンカンパニー制のもとで、よりスピーディな事業経営を実現するために、各事業と本社機構の役割と責任を明確化し、グループシナジーの最大化を図ります。



## 環境に関する基本姿勢

### ニッケグループ環境基本理念

“人と地球に「やさしく、あったかい」企業グループとして、わたしたちは情熱と誇りをもってチャレンジして行きます。”

ニッケグループは、この経営理念のもと、「環境への配慮と高い企業倫理により社会から信頼される企業グループを指向すること」を環境基本方針としています。とりわけ地球環境の保全を重要な課題と捉え、豊かで住みよい社会の実現に向けた企業活動に努めるため、3つの行動方針と4つの重点施策を定めています。そして、研究開発から製造、技術、販売、流通に至るあらゆる分野において、グループ全従業員が積極的に環境保全活動に取り組んでいきます。

### 行動方針

- **環境保全活動の推進**  
CO<sub>2</sub>排出量削減、省資源、環境負荷の低減にグループ全従業員で取り組みます。
- **環境マネジメントシステムの確立**  
ISO14001の認証をニッケ3事業所およびグループ会社9社が取得しています。  
この環境マネジメントシステムを活用することで、継続可能な環境改善に努めます。
- **環境規制の遵守**  
環境関連法規および環境保全協定などを遵守するとともに、排出基準に自主規制値を設定し、厳しい規制管理を図ります。

### 重点施策

- 環境配慮に対するグループ内の意識徹底
- CO<sub>2</sub>排出量削減、省エネルギー、省資源、廃棄物3Rの推進
- 環境問題に対応した素材と生産技術の開発
- 環境関連情報の公開および地域社会との共生

# 環境経営の取り組み

「ニックグループ地球環境委員会」のもと各事業部・本社・神戸本店・東京支社に部門地球環境委員会を設け、環境保全活動に取り組んでいます。活動の推進にあたっては、環境マネジメントシステムの認証取得と継続的な運用を重視しています。

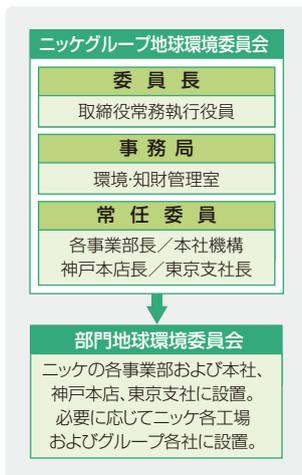
## 環境マネジメントシステム

### ニックグループで共通した環境目標を設定して活動

ニックグループでは、グループ各社が同じ目標のもとで、環境保全活動に取り組む体制の構築をめざしています。そのために、「ニックグループ地球環境委員会」を設けて基本方針と施策を決定するとともに、各事業部・本社・神戸本店・東京支社に設置した部門地球環境委員会で具体的な計画を立案して実行する体制としています。さらに、必要に応じてニック各工場およびグループ各社に同委員会を設置しています。

環境保全活動の推進にあたっては、下図のように“PDCAサイクル”を重視し、このサイクルを繰り返すことで活動の定着と強化を図っています。

### ■ 環境マネジメント体制



### ■ 環境保全活動推進フロー

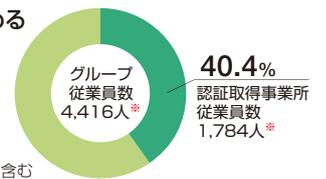


あるISO14001認証を、以下の工場およびグループ会社で取得しています。

### ■ ISO14001認証取得事業所一覧

	登録年月	登録番号
印南工場	2000年11月	JMAQA-E156
アカツキ商事(株)	2001年9月	JSAE419
岐阜工場	2001年10月	JMAQA-E234
アンピック(株)	2001年11月	JQA-EM1898
佐藤産業(株)	2001年11月	JEO129C
(株)ナカヒロ	2002年6月	E465
上海高織製紐有限公司	2004年3月	01 104 031654
(株)ニック機械製作所	2004年11月	162023
(株)テクシオ	2005年2月	EC04J0460
(株)ゴーセン	2005年4月	JQA-EM4701
一宮工場	2007年12月	JMAQA-E72 4
青島日毛紡織有限公司	2008年12月	UO6608EO220ROS

### ■ ニックグループ全従業員に占めるISO14001認証取得事業所従業員の割合



\* 非連結グループ会社を含む

## 環境会計

### 効果的な環境保全活動をめざして

環境会計を導入し、環境保全の取り組みの把握に努めています。今後は経済効果なども集計することで、効果的・効率的な環境経営の推進に役立てたいと考えています。

### ■ 環境会計データ

	2004	2005	2006	2007	2008年度
環境対策投資額(千円)	57,295	63,711	293,822	91,223	149,392
公害防止コスト(千円)	184,162	174,786	173,552	211,863	199,822
汚染負重量賦課金(千円)	6,017	5,866	5,719	5,316	4,980

## ISO14001認証取得状況

### ニックグループで、これまでに12拠点が認証取得

ニックグループでは、環境マネジメントシステムの国際規格で

### topics

#### 海外グループ会社がISO14001を認証取得

中国山東省にあるグループ会社「青島日毛紡織有限公司」では、2008年度、環境保全活動を推進するために施設環境管理部と省エネ専門委員会を新設しました。各部署を巻き込み省エネや節水などの活動に積極的に取り組む中で、環境マネジメントシステム構築に向けた熱意が高まり、2008年12月26日、ISO14001を認証取得しました。これを出発点に、活動の改善・維持・継続を図りながら、環境保全をさらに推進していきます。



## 環境監査と結果

### 外部監査結果は良好との評価

ISO14001 認証取得事業所では、外部監査機関による審査を年1回受けています。2008年度はニッケ3工場合計で不適合3件、観察事項9件の指摘がありましたが、全体的には良好との評価を受けています。

また内部監査は、年1回定期的に実施しており、2008年度は不適合6件、観察事項65件が報告されました。

これら監査の結果については、マネジメントレビューで対策内容を確認・決定して、これに基づきマニュアルや規定書を改訂する場合があります。

## 環境に関する規制の遵守状況

2008年度においても、環境に関して官公庁から指導および罰則を受けておりません。

なお、過去3年間も同様に違反、罰則、訴訟はありません。

## 環境リスク管理体制の整備

### 工場ごとにリスクを規定し、定期的に訓練を実施

ニッケでは、環境マネジメントシステムに基づき、環境に関する緊急事態として、汚水の流出、薬品・油剤の流出、PCBの流出、毒劇物の盗難、火災の発生、都市ガスの漏れ、重油の流出などを想定しており、工場ごとにリスクを規定しています。

緊急時の対応手順は作業標準などに規定し、社員に徹底するとともに、定期的な訓練を実施しています。



ニッケ岐阜工場での防災訓練と訓示



## 環境影響の監視・測定

### 規制を上回る自主規制値を制定し管理

ニッケの3工場では、ボイラや排水処理設備など環境に影響を及ぼす設備について、環境測定機器の定期校正、ボイラ排ガスの測定、排水の分析などの日常点検および定期点検を実施しています。

またニッケ3工場および尾州ウールでは、所在する地域の排水水質規制を上回る自主規制値を設定し、厳しく管理しています。なおニッケ3工場では、騒音についても定期測定・管理しています。

## 環境教育

### 社員の環境意識の向上を図っています

全社員を対象として毎年、環境教育を実施しています。

たとえばニッケ印南工場では、環境方針の周知を図るとともに、環境マニュアルや環境に関する作業標準の教育などを実施しています。この環境教育は、各作業が有する著しい環境への影響、それを改善した場合の環境上の利点、環境マネジメントシステムの運用にあたっての役割と責任、作業標準から逸脱した場合に予想される結果などを啓蒙する機会にもなっています。

## 環境コミュニケーション

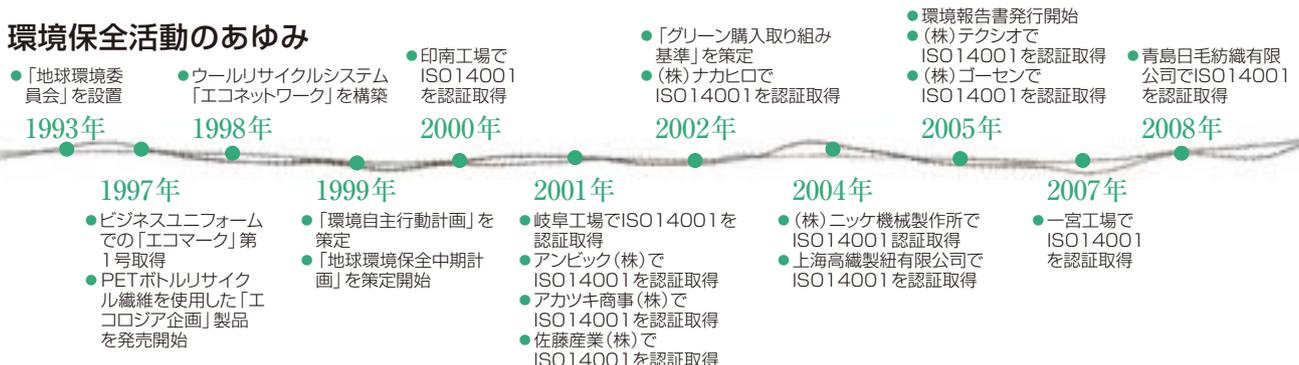
### 印南工場では、地域連絡会を年2回開催

ニッケ印南工場では、地域の皆様との相互理解を深めるために、毎年2回、地域連絡会を開催しています。この連絡会には周辺6町の代表者にお越しいただき、工場や会社の状況を報告するとともにご要望を伺うほか、工場内を見学いただく場合もあります。



印南工場地域連絡会

## 環境保全活動のあゆみ



# 環境負荷の全体像

製品を作り、販売するといった企業活動においては、原材料やエネルギーなどの投入（インプット）、CO<sub>2</sub>や廃棄物などの排出（アウトプット）を避けることはできません。ニッケグループでは、これらの投入量・排出量を把握し、可能な限り環境負荷を低減するように努めています。下図は、ニッケグループの国内繊維事業において投入・排出する主だったものです。

## INPUT

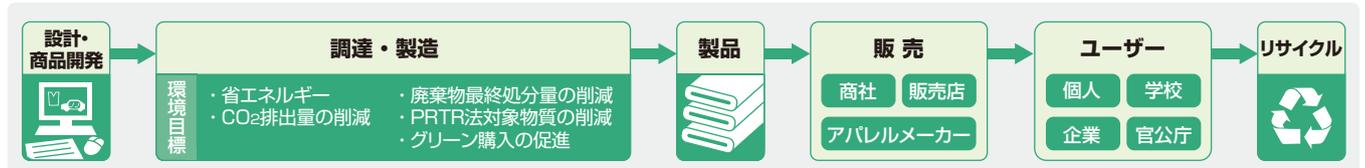
### 原材料



### エネルギー



### 水資源



## OUTPUT

### 大気への排出



### 水系への排出



### リサイクルと廃棄



### 製品の出荷



## topics

### ニッケの繊維原料の特長 ウールは人と地球にやさしい天然素材

主要な原料である羊毛は、羊が「太陽のめぐみとCO<sub>2</sub>をいっぱい吸収した牧草」を食べることで成長します。つまり羊毛は、自然の中で成長し、廃棄しても土に還っていく、まさしく人と地球にやさしいカーボンニュートラルな天然素材です。この羊毛をニッケでは、オーストラリアを中心にニュージーランドからも調達しています。

各国の牧羊業者は、何世代にもわたって牧場の水質や土壌などの環境保全、生態系に配慮した羊の飼育管理を実践しており、こうした取り組みを第三者機関が認証するシステムが確立しています。ニッケでは、ニュージーランド羊毛の認証システム「Zque」に2006年から取り組んでいます。またオーストラリア羊毛がEU-Eco基準を満たす認証システムへの対応として、2008年「タスマニアプロジェクト」を立ち上げました。



# 2008年度の実績と次期環境保全中期計画

ニッケグループは、環境保全を着実に推進するため、2006年12月に「環境保全中期計画(2007年度～2008年度)」を策定し、その達成に向けてグループ全社が一丸となって各種施策に取り組んできました。

## 2008年度の目標と実績、次期の環境保全中期計画目標

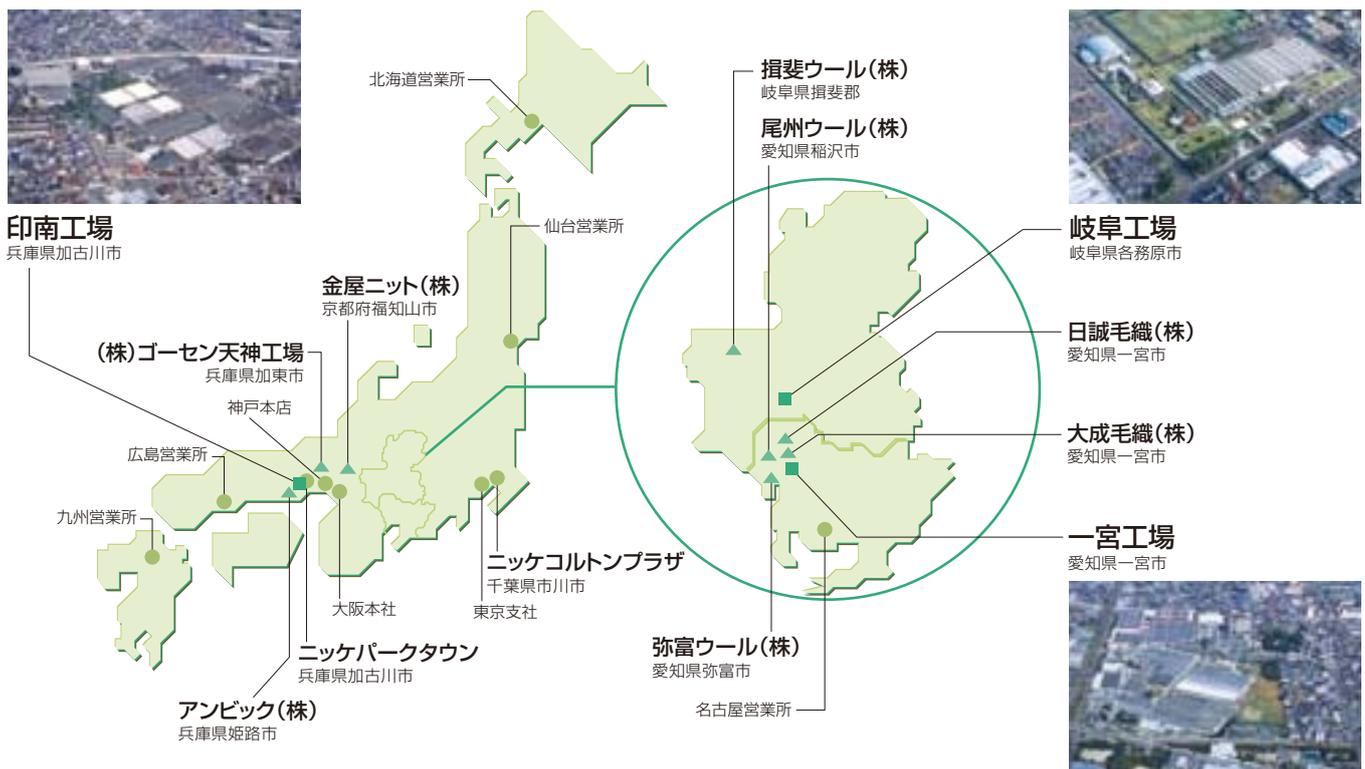
2008年度は、環境保全中期計画目標で掲げた5項目の数値目標を全て達成しました。2009年度は、新たに策定した「環境保全中期計画(2009年度～2011年度)」の初年度として、引き続き全項目達成をめざした取り組みを推進していきます。

目的	2008年度の実績	2008年度の目標	自己評価	中期計画の次期目標(2011年度)	報告頁
省エネルギー	工場出荷額当たり原単位 2006年度比 93.0%	工場出荷額当たり原単位 2006年度比 98.0%以下		工場出荷額当たり原単位 2008年度比 97.0%以下	P.9
CO2排出量の削減	工場出荷額当たり原単位 2006年度比 92.6%	工場出荷額当たり原単位 2006年度比 98.0%以下		工場出荷額当たり原単位 2008年度比 97.0%以下	P.9
廃棄物最終処分量の削減	工場出荷額当たり原単位 2006年度比 75.7%	工場出荷額当たり原単位 2006年度比 96.0%以下		工場出荷額当たり原単位 2008年度比 97.0%以下	P.10
PRTR法対象物質 使用量の削減 ※ 右記の年度は、行政への報告 集計期間(4月～翌年3月)に対応	工場出荷額当たり原単位 2005年度比 82.4%	工場出荷額当たり原単位 2006年度比 90.0%以下		工場出荷額当たり原単位 2007年度比 97.0%以下	P.11
グリーン購入の促進 ※ ニッケ3工場および 本社・東京支社での取り組み	グリーン購入適合品比率 94.0%	グリーン購入適合品比率 94.0%以上		グリーン購入適合品比率 毎年度 95.0%以上	P.13

自己評価の基準 目標を十分に上まわって達成した 目標を達成した 目標は達成できなかったが目標に近づいた 目標に向けた改善ができなかった

## 報告対象事業所

■ 製造拠点3カ所 ● 事業所10カ所 ▲ グループ会社8社



# 地球温暖化防止の取り組み

省エネ型生産設備の活用などの諸施策を実行し、エネルギー原単位およびCO<sub>2</sub>排出量原単位の改善に取り組みました。今後は、省エネ型設備の積極的な導入や工程管理条件の見直し、エネルギー転換の推進などに取り組んでいきます。

## 省エネルギー活動の推進

### 熱エネルギー削減などによって目標を達成

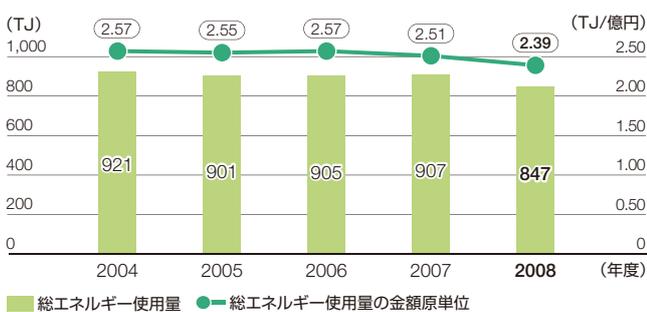
総エネルギー原単位は、「2006年度比98.0%以下」とした中期目標に対して、実績は「93.0%」と目標を達成しました。

熱エネルギーの多くは、染色や洗絨の工程で必要となるお湯を沸かす設備や、乾燥させるために空気を暖める設備に使用しています。2008年度は、省エネ型生産設備に仕かける反物の割合を増加させることで、熱エネルギーを削減しました。

電気エネルギーは、生産動力としてだけでなく間接動力(空調・照明・コンプレッサ)にも多く使用しています。2008年度、電気の省エネルギーとして間接動力の低減に取り組み、空調機管理の徹底、不要照明消灯の徹底、コンプレッサ整備の徹底を図りました。また工程改善によるエネルギー削減にも継続して取り組みました。

熱の循環利用の一例として、ニッケー宮工場では、蒸気のドレンを60m<sup>3</sup>の高温温水タンクに回収しています。また冷却工程で温度が上昇した冷却水は、40m<sup>3</sup>の低温温水タンクに回収しています。これらの温水は再び染色や洗絨などの温水を使用する工程へ送水することで、熱を循環利用しています。

### ■ 総エネルギー使用量と原単位の推移



## 温室効果ガスの排出量削減

### 基準年に対するCO<sub>2</sub>排出量を57.3%削減

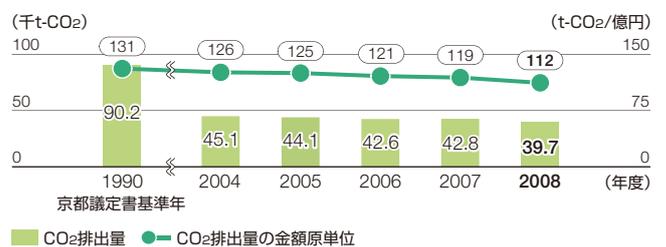
CO<sub>2</sub>排出量原単位は、「2006年度比98.0%以下」とした中期目標に対して、実績は「92.6%」と目標を達成しました。

これは総エネルギー使用量の削減によるものです。今後は、一部残っている重油ボイラをガスボイラに転換することで、CO<sub>2</sub>排出量のさらなる削減に取り組みます。

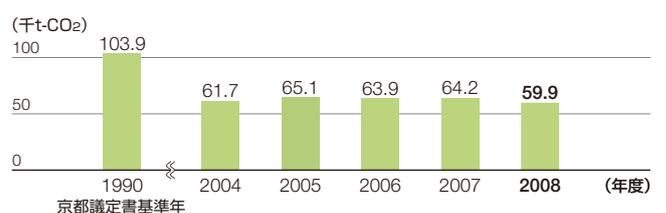
京都議定書に定める基準年1990年に対するCO<sub>2</sub>排出量は、国内繊維製造部門では57.3%減となりました。またショッピングセンター事業(P.14参照)を加えると42.3%減となりました。

なお海外事業所におけるCO<sub>2</sub>排出量は、各国ごとに算出基準が異なることから正確な算出が難しい状況ですが、海外事業所分を加えたCO<sub>2</sub>排出量は、基準年から20%弱削減できたものと推測しています。

### ■ CO<sub>2</sub>排出量と原単位の推移



### ■ CO<sub>2</sub>排出量の推移(国内繊維事業とショッピングセンター事業との合計)



## topics

### ヒートアイランド現象緩和のためグラスパーキングに改修

ニッケ印南工場では、ヒートアイランド現象の緩和と景観向上のため、2008年3月、碎石敷きの来客駐車場(乗用車21台分)をグラスパーキング(芝生化駐車場)に改修しました。この改修によって、夏場の路面温度は、昼間で12℃、夜間で7℃の低下が確認でき、気温低下効果が実証されました。

芝生化への改修にあたっては、緑化率90%の芝生保護材を選定しました。芝生が根付いて伸びてくるとに連れ、保護材が隠れて芝生広場ようになり、初めて駐車される方は、駐車しても良いのか戸惑われる場面もあったようです。

なお今回のグラスパーキング化工事は、兵庫県が推進する「県民まちなみ緑化事業」の補助を受けています。



印南工場グラスパーキング

# 省資源・リサイクルの取り組み

廃棄物で最も多くの割合を占める脱水汚泥を、セメント原料としてリサイクルする仕組みをさらに推進しました。今後、脱水汚泥そのものの発生量を抑制する仕組みの検討や、廃プラスチックなどのリサイクル率向上に取り組みます。

## 総物質投入量の低減

### 原材料の投入量低減に継続的に取り組んでいます

繊維製造事業の主な原材料には、ウールを中心とした天然繊維、ポリエステルを中心とした合成繊維、染料・薬剤があります。これら原材料の投入量を低減させるために、製造工程では歩留まりを高く維持することや不良率低減に継続的に取り組んでいます。

## 水資源使用量の削減

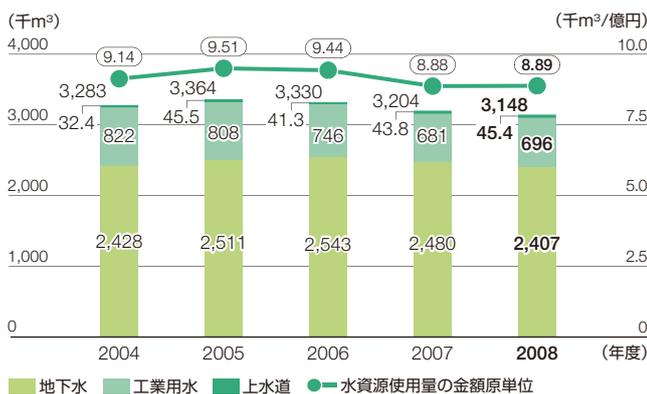
### 事業所で独自に目標を掲げ、使用量を削減

使用する水資源には上水道・工業用水道・地下水があり、水資源が持つ水質や水温などの特性に合った用途で使用しています。

水資源使用量の削減については、環境保全中期目標には掲げていませんが、ニッケ3工場および一部のグループ会社では、具体的な削減目標を設定し、節水に取り組みました。2008年度の使用量は前年度に比べて1.7%減少しましたが、原単位では0.1%とわずかですが増加しました。

今後、染色および洗浄工程での節水対策の推進、空調用水および冷却水の循環利用の向上などで、水資源使用量の削減に努めます。

### 水資源使用量と原単位の推移



## 物質の循環利用

### ほとんどの副産物を再利用するシステムを確立

製造過程で発生する篠くすや短い毛などの副産物は、紡毛原料としてほぼ100%再利用するシステムが確立しています。

また、セーターや手編み糸などを包装する包装材の使用量は年間5t程度で、これら容器包装材は日本容器包装リサイクル協会に依頼して、リサイクル(再商品化)しています。

## 廃棄物の削減

### 汚泥リサイクルの推進によって目標を達成

廃棄物最終処分量原単位は、「2006年度比96.0%以下」とした中期目標に対して、実績は「75.7%」と目標を達成しました。

廃棄物の内訳は、排水処理設備から発生する汚泥がおよそ半分を占めます。この汚泥をセメント原料化する対応を順次進め、2008年度、ほぼ100%の汚泥に対応することが可能となりました。

次に多い廃プラスチックについては、中間処理業者で粉碎後、サーマルリサイクル(熱回収)としてボイラ用固形燃料に利用されています。しかし廃プラスチックのリサイクル率はおよそ70%程度のため、今後、リサイクル率向上の取り組みを強化します。

### 廃棄物発生量・リサイクル量・最終処分量と原単位の推移



## topics

### キャリア空調方式による水資源の循環利用

ニッケの多くの製造工程では、「キャリア空調方式」を採用しています。この方式は、空気の加湿・除塵と夏季には冷却を同時に行う空調システムで、加湿・除塵・冷房を個別に行った場合に比べて省エネが図れます。しかし、この方式は多量の用水を使用するため、清潔度を維持しつつ用水を何十回も循環利用することで、水資源使用量の低減に努めています。



キャリア室(上)と  
キャリア設備

# 化学物質の削減と管理

PRTR法※対象物質の使用量が多い薬剤について、対象物質を全く含有しない物質への切り替えをほぼ終了しました。今後は、薬剤などの調査・試験を進め、少量使用している物質においても切り替えを進めていきます。

※ PRTR法：特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律。一定の条件に合致する事業者は、指定された化学物質の排出量と廃棄量について、年1回の届出が義務付けられた制度。

## PRTR法対象物質の使用量削減

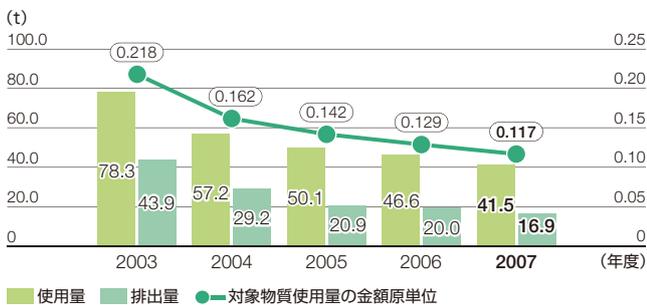
### 対象物質を含有しない化学物質への切り替えを推進

PRTR法対象物質の使用量原単位は、「2005年度比90.0%以下」とした中期目標に対して、実績は「82.4%」と目標を達成しました。これは、PRTR法対象物質を含有する化学物質の中で、比較的使用量が多いものから優先的に、PRTR法対象物質を全く含有しないものに切り替えたためです。

ニッケ3工場では、このような使用量の多い化学物質の切り替えは2008年度で終了しました。今後は、使用量の少ない薬品に対しても切り替えを進めていきます。またアンビック(株)では、使用しているPRTR法対象物質(ノニルフェノール)を全廃する取り組みを進めています。

なお、化学物質の管理については、PRTR法対象物質を含むか否かに関わらず、「労働安全衛生法」および「毒物劇物取締法」などの関係法令を遵守して適正な管理を継続しています。

### PRTR法対象物質の使用量・排出量・使用量原単位の推移※



※ PRTR法の届け出については、事業者は個別事業所ごとに化学物質の排出量・移動量を把握し、繊維産業においては都道府県経由で経済産業大臣に届け出ています。その集計期間は4月から翌年3月までと定められており、上記グラフの年度も、この集計期間に準じているためニッケの報告期間とは異なります。

## PCB使用機器廃棄物の管理

### 適正で安全な保管を継続

ニッケグループでは、国の全額出資によって設立された特殊会社「日本環境安全事業株式会社」に対して、グループ全体で70式のPCB使用機器廃棄物を処理登録しており、現在、処理順を待っている状況です。処理が実施されるまでは、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行規則」に定められている「特別管理産業廃棄物保管基準」に従って安全に保管を続けます。

なお、微量PCB使用電気機器であるPCB安定器および微量PCB検出変圧器などについては、国の処理方針が決定され次第、処理計画を策定し適正に処理する予定です。

微量PCB使用電気機器についても、PCB使用機器廃棄物と同様に、処理が実施されるまでは、「特別管理産業廃棄物保管基準」に従って安全に保管を続けます。



PCBの保管状況

## ダイオキシン類について

ニッケグループでは、ダイオキシン類対策特別措置法で定められた特定施設は設置していません。

### ご報告 旧弥富工場跡地での土壌汚染に関する自主調査について

ニッケの旧弥富工場跡地(愛知県弥富市)において、将来の開発計画を前提に土壌汚染にかかわる自主検査を実施したところ、73地点のうち1地点から、指定基準を超過する特定有害物質(六価クロム化合物——染色工程の助剤として1997年まで使用)が検出されました。

この調査結果に対して、応急の措置を講じるとともに、愛知県条例に基づき届出をしました。指定基準の超過区画のうち、コンクリート被覆されていない部分は即座にアスファルト被覆しました。今後は、愛知県の指導を受けながら、土壌の掘削除去を実施する予定です。なお現時点では、土壌表面を被覆したことで、拡散・飛散のおそれはなく、地下水の汚染も確認されていません。

この詳細は、ニッケグループホームページでご報告しております。



旧弥富工場跡地で実施したアスファルト被覆

# 大気や水などの汚染防止

大気汚染や水質汚濁、騒音などの公害対策については、特に周辺住民の方々へご迷惑をおかけしないように、公害防止設備の定期保全を確実に実施し、排ガスや水質の定期分析および管理を継続しています。

## 大気汚染物質の削減

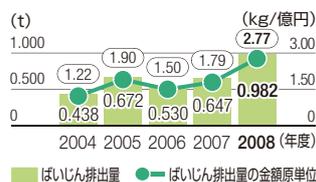
### 排出基準を十分に下まわるように管理

SOx・NOx・ばいじんはボイラの排ガスに含まれるもので、特にSOx排出量はボイラ燃料に起因します。ニッケ印南工場と一宮工場、アンビック(株)などでは、過去にボイラ燃料を重油から都市ガスに転換したため、SOx排出量はゼロになっています。またNOx・ばいじんについても、「大気汚染防止法」ならびに関係法規、環境保全協定に基づく排出基準を十分に下まわるよう管理してきました。

2009年度は、ニッケ岐阜工場および尾州ウール(株)のボイラ燃料を都市ガスに転換する工事を実施する計画であり、大気汚染物質排出量のさらなる低減を図ります。

### SOx排出量と原単位の推移

### ばいじん排出量と原単位の推移



## 排水の管理

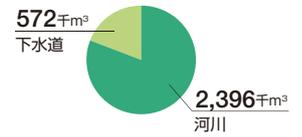
### 日常的な管理で、排水基準以下の水質を保持

工場排水に含まれるCOD負荷・BOD負荷・SS負荷は、自社の排水処理装置または公共の下水処理場でこれら負荷量を減少させた上で、河川などの公共水域に放流されています。

各工場では定期保全の確実な実施に加え、日常的な管理運用、上乘せ排水基準の設定、排水水質の定期分析などを通じて、「水質汚濁防止法」ならびに関係法規に基づく排出基準を下まわるよ

うに確認・管理しています。2008年度、ニッケ一宮工場ではCOD負荷およびBOD負荷を低減するため、新たな排水処理システムを導入しました(下段 topics参照)。

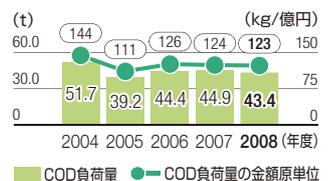
### 排出先別内訳 (2008年度)



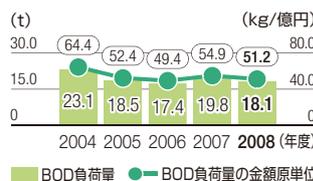
### 排水量と原単位の推移



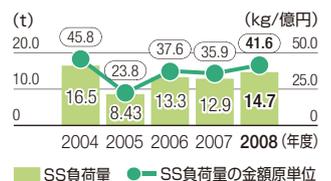
### COD負荷量と原単位の推移



### BOD負荷量と原単位の推移



### SS負荷量と原単位の推移



## 周辺生活環境の保全

### 臭気・騒音・振動などの管理に努めています

2008年度、中部と関西地区の事業所周辺にお住まいの方から、排水処理設備から発生する悪臭への苦情がありました。中部地区の事業所では、敷地境界近くにあった調整槽を悪臭が出ないように撤去し対策を完了しました。また関西地区の事業所では、悪臭の拡散を抑制するため処理槽を覆いました。さらに臭気の低減などの対策を検討しています。

なお各事業所では、騒音・振動などを定期的に測定しています。騒音が心配される場合は吸音材や遮音材を貼り付け、また振動が心配される場合は吸震材を敷設するなどして、周辺の生活環境の保全に努めています。

## topics

### ニッケ一宮工場で新排水処理システムが稼働

2008年度、ニッケ一宮工場ではISO14001を認証取得するとともに、新排水処理システムを導入し、環境にやさしい工場をめざした環境保全に努めました。

一宮工場では、各工程での節水対策や工程改善などによって低濃度排水が減少したため、総合排水の水質が自主規制値近くまで上昇することがありました。そこで総合排水の水質低減を図るために、2008年5月に排水処理システムを導入しました。

新排水処理システムは、固定微生物膜方式の処理装置を2基直列に配置しており、BODなどの水質汚濁物質を約10分の1に低減することを確認しています。



一宮工場新排水処理システム

# グリーン購入の取り組み

ニッケは1998年に「グリーン購入ネットワーク」に加入し、さらに2002年に「グリーン購入取り組み基準」を制定して、環境負荷の少ない製品やサービスを優先して購入するグリーン購入への取り組みを促進しています。

## グリーン購入の促進

**適合品比率のほぼ上限まで取り組みを促進** 

グリーン購入適合品比率は、「2008年度94.0%以上」とした中期目標に対して、実績は「94.0%」と目標を達成しました。2007年に発覚した製紙業界の偽装問題の影響で、紙類の適合品比率が低下したものの、購入費のウエイトが高いOA機器の適合品比率が100%となったことが影響しています。

文房具の中には、グリーン購入に該当する物品が存在しないも

のがあり、適合品比率はほぼ上限に達したと考えています。

### ■ グリーン購入比率

	2004	2005	2006	2007	2008年度
紙類 (%)	85	88	95	95	93
文具類 (%)	48	56	63	68	69
機器類 (%)	70	88	100	99	98
OA機器 (%)	96	100	100	99	100
照明 照明器具 (%)	100	99	100	100	100
照明 蛍光灯 (%)	71	63	71	100	98
合計 (%)	82	90	92	93	94

# オフィスでの取り組み

この取り組みでは、ニッケの本社、神戸本店、東京支社および北海道、仙台、名古屋、広島、九州の各営業所のオフィス部門の環境データを集計して報告しています。

## オフィスにおける環境保全

### 電気・水道・ガスの使用量は、前年度から低減

電気使用量、水道使用量、ガス使用量は、いずれも前年度を下まわりました。

電気使用量は、夏季の猛暑で使用量増加が懸念されましたが、エアコン電力を低減させる室外機水噴霧装置の取り付けや照明電力を低減させるインバータ安定器の取り付け、また休憩時間の消

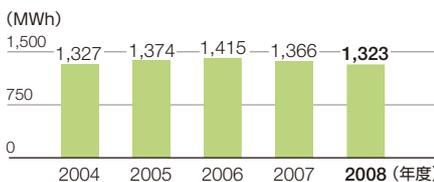
灯や不要照明の消灯の徹底が電気使用量低減につながりました。

水道使用量は、特に各個人の対応で大きく変動するため、節水PRを繰り返すことで対応しました。

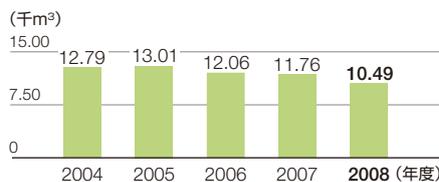
ガス使用量は、食堂部門での調理方法の工夫で対応しました。

今後は、「チーム・マイナス6%」への対応がよりの確に実施されるように、部門地球環境委員会などの活用によってオフィス部門の環境保全対策を推進していきます。

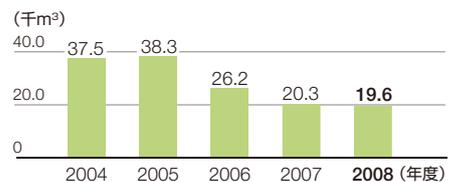
### ■ オフィスでの電気使用量の推移



### ■ オフィスでの水道使用量の推移



### ■ オフィスでのガス使用量の推移



## topics

### 環境省の「ライトダウンキャンペーン」に参加

環境省では地球温暖化防止のために、ライトアップ施設などの電気を消す「CO<sub>2</sub>削減／ライトダウンキャンペーン」を展開しています。2008年は6月21日に「ブラックイルミネーション2008」として、また7月7日には「セブタライトダウン」として実施されました。

このキャンペーンには、これまでニッケ3工場を中心に参加してきましたが、2008年度はニッケグループに拡大して取り組みました。新たな参加は20あまりの事業所におよび、電力量で約100kWh、CO<sub>2</sub>排出量で約40kg-CO<sub>2</sub>を削減できました。

2009年度以降もニッケグループとしての取り組みを継続し、参加事業所を拡大していきます。



ライトダウン  
キャンペーン  
ポスター



広告照明を  
点灯した時の  
様子

# ショッピングセンター運営での取り組み

ニッケは国内2カ所で大規模なショッピングセンターを運営しています。地域の皆様に憩いの場となるような環境づくりと交流に努めるとともに、人にやさしいショッピングセンターをめざした設備の充実にも努めています。

## ニッケとショッピングセンター事業

### 兵庫と千葉でショッピングセンターを展開

ニッケでは、1984年2月に創業の地である兵庫県加古川市において、ショッピングセンター（SC）事業を開始しました。「地域のコミュニティの場」「地域の利便性の向上」など地域への貢献をめざして、SC事業を展開したものです。施設名称は、公園のように憩える場をめざして「ニッケパークタウン」とし、現在では7万m<sup>2</sup>を越える敷地内に90店舗が営業するSCとなっています。

また1988年11月には、千葉県市川市に「ニッケコルトンプラザ」を開業させました。現在では14万m<sup>2</sup>を超える敷地に160店舗が展開する大規模SCに成長し、2009年5月初旬には、さらに増床してリニューアルオープンします。

ニッケはSC事業を通じて、地域の皆様にコミュニティの場を提供するだけでなく、「新たなコミュニティのカタチ」を提案しながら、豊かな生活への貢献をめざしていきます。



ニッケパークタウン



ニッケコルトンプラザ

屋上散水・屋根上緑化、剪定くずや落ち葉のコンポスト化などに取り組んでいます。



ニッケパークタウン花のひろば



ニッケコルトンプラザ鎮守の森

### <省エネ>

省エネについては、冷温水発生機の高効率機器への更新、ポンプへのインバータ設置、日射避けフィルムや遮光幕の利用による空調エネルギーの削減などを中心に取り組んでいます。このほか廃棄物分別による処分量の減量にも取り組んでいます。

### <安全・安心>

お客様への安全・安心を追求するために、段差のない館内通路とするとともにウォークスルーエレベーターを導入しているほか、使いやすい身障者用駐車場、防犯・防災カメラや心臓発作用の医療機器AEDなどの設備の充実を図ってきました。



段差のない入口

### <情報発信>

館内に設けたギャラリーでは、「環境保全」「交通安全」「防火」「省エネ」などのポスター展を開催して地域への広報活動に努めているほか、特別支援学校の児童生徒の社会的経験や地域との交流を目的とした「買い物学習」の場の提供などもしています。

今後も、事業の公共性を考え、「人にやさしい施設」「地域への情報発信地」としての機能を果たしていきます。



防火ポスター展

## 事業と環境保全、社会機能の追求

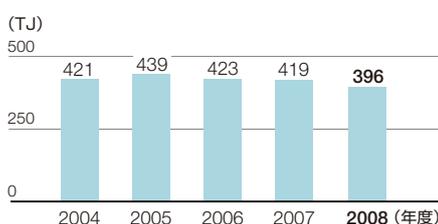
### 身近なところからさまざまな活動を実施

ニッケは、「多くのお客様が来場するSCは、人にやさしい設備を設置するだけでなく、地域に対して環境問題や安全に関する広報活動も展開する責務がある」と考えています。

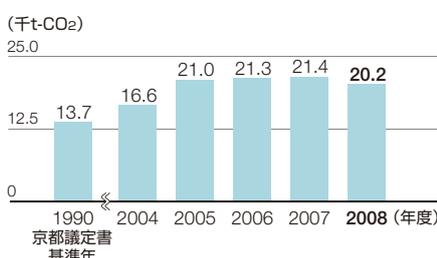
### <人にやさしい環境設備>

「憩いの環境づくり」と「地球温暖化防止」の観点からは、樹木や草花をピオトープ風に配置した広場づくり、駐車場の緑地化や

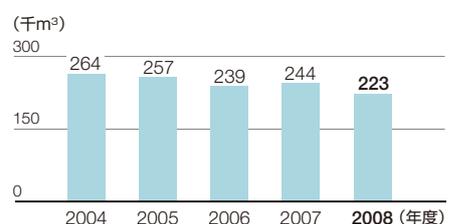
### ■ 総エネルギー使用量推移



### ■ CO<sub>2</sub>排出量推移



### ■ 用水使用量推移



## 環境に配慮した製品

ニッケグループは、人と地球にやさしい素材であるウールを主原料としたさまざまな製品を製造・販売するとともに、環境に配慮した素材の開発、再生繊維の製造、衣料品リサイクルの推進などに取り組んでいます。

### 「イージーケア」&「水系洗濯基準」両水準適合ウォッシュブル素材



NIKKE  
**AQUA WASH**  
ニッケ アクアウォッシュ



#### ソフトな風合いを生かした新技術。

ニッケの技術力の新たな快挙。独自の特殊加工により、ウォッシュブル素材としては画期的な「きわめてソフト」な風合いの、家庭洗濯対応のウォッシュブル素材を開発。地球環境にも配慮した次世代ウールです。

#### 家庭の洗濯機で洗って、家庭でエコ。

ウール100%なのに、家庭で洗濯できる。

有機溶剤を使わないから、地球環境に優しい。

あくまでソフトな風合い。弾力のある美しい目風。

### 繊維にも環境にも配慮したエコロジー技術

**PLASMAFINE**  
**BLACK / WASH**



#### 常識を破った〈大気圧プラズマ〉技術。

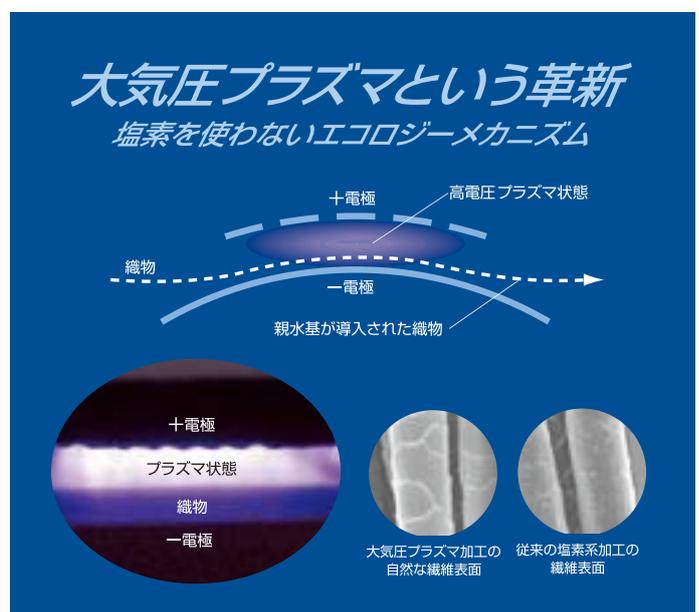
〈大気圧プラズマ〉方式は、繊維表面を損傷するこれまでの塩素系加工に代わる真空プラズマ加工を、さらに一歩進めた革新のプラズマ技術です。ウール組織を傷つけることなく繊維表面に親水基を導入、より自然な状態でハイレベルの染色や複合加工を容易にすることができました。

#### ナノレベルの低屈折率被膜で究極の黒を実現 プラズマ ファイン [ブラック]

〈大気圧プラズマ〉技術を、ブラックフォーマル素材に応用。自然に近い状態を保ちながらプラズマ処理した繊維に、ナノレベルの極薄低屈折率被膜を均一に強固に分子結合。ナチュラルな風合いと、深く濃く吸い込まれるような「プラズマ黒」を実現しました。

#### 自然に、ソフトに、非塩素系の新ウォッシュブル素材 プラズマ ファイン [ウォッシュ]

〈大気圧プラズマ〉技術を、ウォッシュブル素材に応用。従来のウォッシュブル加工に代わり、自然に近い状態でプラズマ処理し、さらにソフトなナノ被膜を繊維表面に分子結合することにより、画期的なウォッシュブル素材が誕生しました。

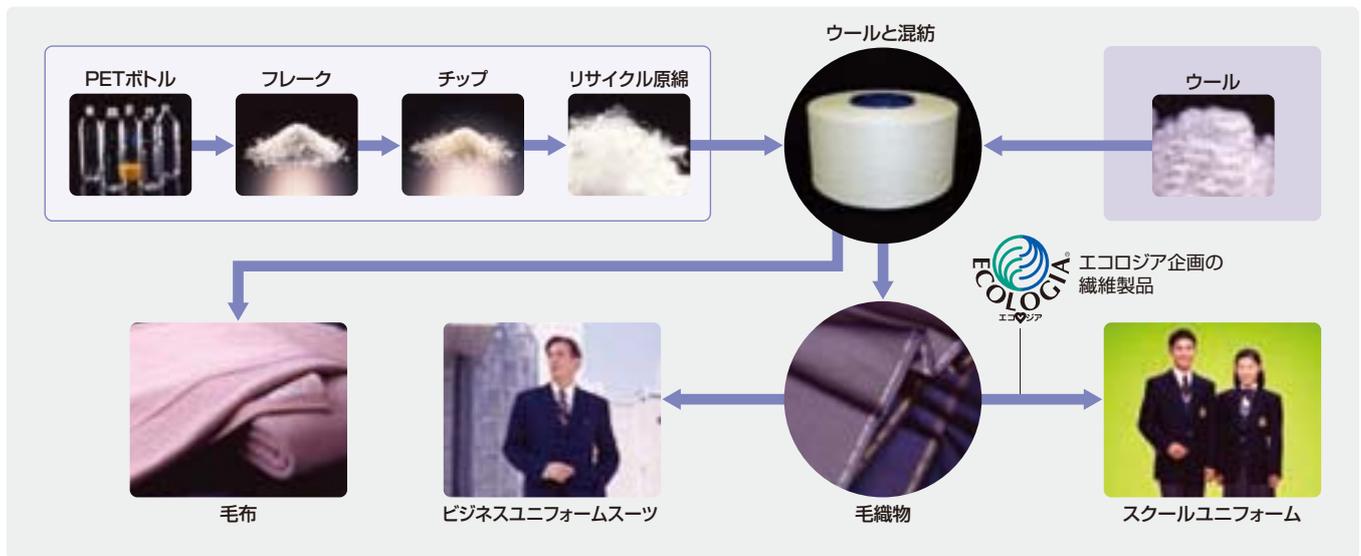


## 再生繊維を用いた「エコロジア企画」

### PETボトルをユニフォームなどに再生

ニッケと帝人(株)、日清紡績(株)の3社は、共同でトライアングルプロジェクトを構築し、その企画のひとつとして、1997年に使用済みPETボトルを繊維に再生し使用する「エコロジア企画」を立ち上げました。

これは、ゴミを減らすばかりではなく、合成繊維の主原料である石油の消費抑制にも役立つ地球にやさしい環境保全活動のひとつです。ニッケグループでは、再生されたポリエステル繊維とウールを混紡し、ユニフォームなどの製品へと加工して、再び社会へ送り出しています。



## 「エコマーク」取得商品

### 学生服用生地や毛布などでエコマークを取得

エコマークは、生産から廃棄にわたるライフサイクル全体を通して環境への負荷が少なく、環境保全に役立つと認められた製品・サービスに付けられる環境ラベルです。マークの使用については、(財)日本環境協会エコマーク事務局が管理しています。

商品類型ごとに設定されている厳しい認定基準を満たした商品のみエコマーク表示が許諾され、ニッケのエコマーク取得商品には、学生服用生地、ビジネスユニフォーム用生地、毛布などがあります。

## 「エコネットワーク」製品リサイクルシステム

### 衣料製品のリサイクルシステムを共同運営

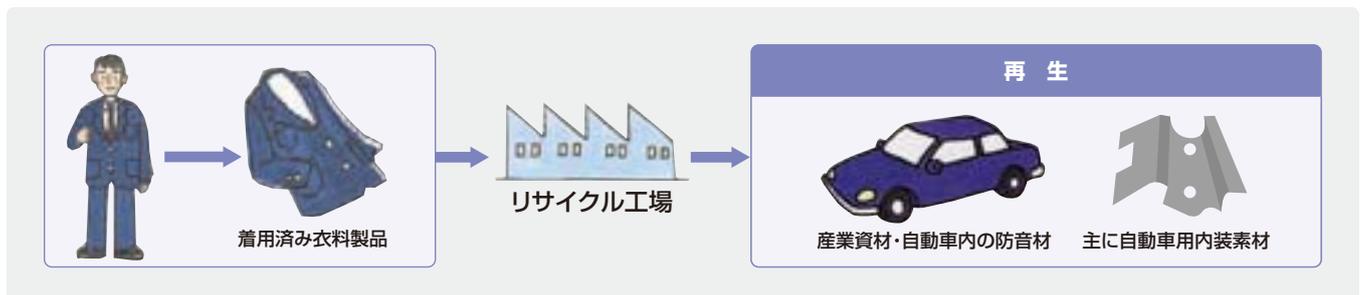
限りある資源を大切に使い地球環境を保全することは、現代社会を生きる私たちに課せられた義務であり責任です。繊維業界においても、製品回収・再生に向けた意識が高まっています。

素材のリサイクルによって、地球環境への負荷を減らすため、ニッケと(株)ダイドーリミテッド、大東紡績(株)の3社は、1998年に共同でウールリサイクルシステム「エコネットワーク」を構築しました。

「エコネットワーク」の回収製品は、ウール100%およびウール

と他繊維の複合素材による衣料製品(メンズスーツなどの一般衣料、スクールユニフォーム、ビジネスユニフォームなど)を対象としています。

「エコネットワーク」会員からの着用済み衣料は、専用袋で指定のリサイクル工場へ回収しています。これらの回収製品を産業資材等として再生し利用することで、原材料の節減と廃棄物の減量を両立します。





# 製品責任および安全

より安全・安心な製品を開発・製造・販売するために、ニッケグループではISO9001マネジメントシステムに基づくPLP委員会を各部門に設置し、品質管理体制の継続的な見直しと強化を図っています。

## 製品責任

### 製品に責任を持てる品質管理体制を確立・維持

ニッケグループでは、製品の製造・販売過程で、各種法律・規格・基準に合致していることを検査・検証し、製品に対して責任を持てる製造・検査プロセスと品質保証体制を確立・維持しています。

たとえばニッケ繊維製品製造部門では、資格認定者である検査員が製造の各工程で品質基準に適合しているかを検査し、最終検査品をキズ引き・格付けすることで品質を保証しています。

品質管理にあたっては、品質管理マネジメントシステムISO9001を基本とし、ニッケの印南工場・岐阜工場、アンビック(株)、(株)コーセン天神工場、(株)ニッケ機械製作所が認証取得しています。

2008年度も、お客様との定期的品質会議や技術巡回を通じて、さらなる品質向上対策を実施しました。

## 製品安全

### 部門ごとのPLP委員会が具体的活動を推進

ニッケグループでは、「製品安全宣言」および製品安全対策要綱と同規定に基づき、製品の安全性を確保・検証するために、「ニッケグループPLP委員会」を設けるとともに、部門ごとに設置した「部門PLP委員会」が具体的な活動を推進しています。

たとえばニッケ繊維製品製造部門では、針や金属片の混入防止のために、残針管理者によるチェックや金属検知機による検査を実施し、その結果と対策をPLP委員会で毎月検証しています。

また原料については、検査結果を定期的に供給先にフィードバックし、必要であれば技術指導しています。品質への影響がある加工委託品も受入検査し、定期的に品質向上対策会議を実施するほか、薬品油脂類は継続採用品についても定期的に化学物質等安全データシートを見直して確認しています。

## 安全・衛生に関する取り組み

### 安全対策を設備と意識の両面から実施

安全で衛生的な職場環境の実現は、製品の品質向上のための第一条件です。ニッケグループでは、グループ内で発生した労働災害情報を共有し、安全管理の徹底に役立てています。

ニッケでは、年度ごとに安全衛生計画を立案し、着実な実行に努めています。ニッケ各工場で共通する主要なテーマとしては、リスクアセスメントによるリスクレベルの低減、安全意識の高揚、

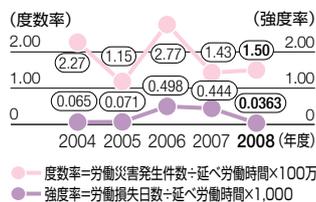
5Sの徹底、標準動作の見直し、危険予知活動、安全教育の徹底、交通安全教育があります。

2008年度、ニッケグループでは、労働災害発生件数の増加によって度数率はやや悪化しましたが、強度率は改善されました。労働災害の増加要因としては、油断・軽視、標準動作違反、危険教育の不十分さなどが挙げられます。この防止対策として、設備面では安全カバーやエリアセンサーの設置、意識面では朝夕礼での安全教育の徹底、保護具着用の徹底、新入社員の入社半年後安全教育などを実施しました。

### 労働災害発生件数の推移



### 度数率・強度率の推移



## 保安防災の取り組み

### グループが連携して訓練を実施

ニッケ各工場および近隣のグループ会社では、連携して保安防災に取り組んでいます。具体的には、放水や初期消火、緊急避難訓練や防火パトロールの実施、緊急連絡網の整備などがあります。過去にグループ内で発生した事例を教訓化して、機械モーター関係の火災対策、倉庫水害対策なども実施しています。

こうした訓練内容は、ニッケグループニュースに掲載して、グループ全社員の意識高揚を図っています。

## 個人情報の保護

### ニッケグループ個人情報保護規定に基づき運用

ニッケグループは、「ニッケグループプライバシーポリシー」と「ニッケグループ個人情報保護規定」を2005年に制定し、個人情報の管理に努めています。具体的には、「個人情報管理責任者」を任命し、「個人情報管理者」「同担当者」「同取扱者」を選任して、現場レベルでの管理強化に取り組んでいます。

各社各部門では、「個人情報取扱規定」を作成して継続的な教育指導を実施しています。またニッケでは「パソコン管理規定」を2003年に制定し、情報漏洩の防止に努めています。

2008年度、ニッケグループにおける個人情報の漏洩などの事故は発生していません。

## ニッケグループの社会的取り組み

# 働きやすい職場づくり

社員の幸せを追求し、希望と生きがいの持てる企業グループをめざして、ニッケグループでは、労使協力のもとで社員が働きやすい職場づくりに取り組んでいます。

## 人権の尊重

### 「企業倫理ハンドブック」に明記して取り組みを推進

ニッケグループは、安全で働きやすい職場環境を確保するとともに、雇用の機会均等、社員の能力開発等を図り、関係するすべての人々の人権を尊重し、差別のない明るい職場をつくります。

「ニッケグループ企業倫理ハンドブック」には、「人間の尊重」として上記を掲げ、人権を尊重した職場づくりに努めています。

## 仕事と家庭の両立

### 法定期間を上まわる制度を設けて支援

ニッケでは、女性社員が出産・育児後も離職せずに仕事が続けられるように、法定日数・期間を上まわる「出産休暇・育児休職制度」を設けています。少子高齢化に対応した子育て支援策として浸透し、2008年度は5名が出産休暇・育児休職を取得しました。

また、介護休職制度でも法定期間を上まわる休職期間を設けており、2008年度は1名が利用しました。

## 高齢者雇用と技術伝承

### 定年年齢を段階的に65歳まで延長

ニッケでは、2008年4月から定年年齢60歳を段階的に65歳まで延長し、2008年度は39名の60歳到達者のうち25名が定年延長し、8名を再雇用しました。

技術伝承については、各職場固有のスキルを十分に引き継ぐために、熟練者による後輩社員へのマンツーマン教育などを継続的に実施し、確実な伝承に努めています。

## 障がい者雇用の取り組み

### 障がい者雇用率がはわずかに達成できず

ニッケでは、障がい者雇用率の達成・維持に努める一方、障がい者にも働きやすい環境を整備して、本社・工場はもとよりショッピングセンターでも活躍できる職場を提供しています。

2008年度、ニッケの障がい者雇用率は、法定雇用率1.8%をやや下まわる1.74%であり、雇用義務人数(18名)は満



たしましたが、今後、障がい者雇用率の達成に積極的に取り組みます。

## 職場環境の改善

### セクハラやパワハラ防止でも労使で対応

労働組合の対話集会で提起された職場環境の改善などに取り組んでいます。また、セクハラ・パワハラ防止などについても、人事総務課・工場総務課・労組各支部が窓口となって対応しています。

定時退社日としてヘルスケアデーを設定し、強化月間には労使で職場巡回しています。

## 心と体の健康への配慮

### 健康保険組合と共同した取り組みを推進

生活習慣が大きな一因とされるメタボリック・シンドローム(メタボ)を改善・予防するために、2008年度から特定健診・特定保健指導が始まりました。初年度、日本毛織健康保険組合では、特定健診受診率67%、特定保健指導実施率25%でした。今後5年間でそれぞれ80%、45%をめざし、メタボにならない生活習慣の定着を図っていきます。また40歳以上の希望者を対象としたメタボ教室を14回開催し、受講者は延べ131名でした。

メンタルヘルスの面では、2008年度は新入社員を対象としたストレスへの気づき・対処に関する研修を実施しました。

長時間労働による健康障害防止のために、時間外労働が月80時間を超える社員については産業医の面接指導を実施しています。2008年度の対象者は6名でした。

## 知的財産の尊重

### 社員が創造した知的財産は、規定に基づき評価・処遇

ニッケグループでは、社員が業務に関連して創造した知的財産を「発明考案規定」に基づき評価・処遇しています。

ニッケでは2008年12月1日付で「環境・知財管理室」を設置し、ニッケグループ全体の知財管理を統括する体制としました。グループが所有する特許の有効利用・防衛などに対処していくとともに、社員に対しては発明報奨制度などの活用を図っていきます。

また、共同研究などにおける秘密保持契約の締結や創出された発明の取り扱いなどにも対応していきます。さらに、グループ外の知的財産の尊重も徹底するように図っていきます。

# 社会貢献活動

ニッケグループは社会に貢献する企業としての使命と責任を果たすため、文化・スポーツ支援事業や工場見学の実施などを通じ、積極的に社会とのコミュニケーションを図っています。

## 「ニッケ全日本テニス選手権83rd」に特別協賛

ニッケグループ事業と関連のあるテニスの支援と企業イメージ向上をめざし、(財)日本テニス協会主催「ニッケ全日本テニス選手権第83回大会」において、前年に引き続き特別協賛(冠スポンサー)を行いました。同大会は83回の伝統と“天皇杯”(男子シングルス)“秩父宮妃記念盾”(女子シングルス)を競う名実ともに国内最高峰のテニス大会で、2008年11月9日から16日に東京有明で開催されました。

今大会には日本テニス協会名誉総裁であらせられる秋篠宮殿下がご来場され、11年ぶりの皇室の観戦を賜り大会に華を添えられました。

今後も「めざせ世界を! ニッケがサポートします」をスローガンに本大会を支援してまいります。



イラスト大賞は年齢不問の企画として、エッセー大賞と同テーマでイラストを募集し、子どもから大人まで、それぞれの夢や思いを描いた心温まる4,000作品の応募がありました。

それぞれの入賞作品はニッケグループホームページに掲載し、また2009年3月には『Pure Heartエッセー・イラスト集Vol.3』(かんぼう発行)として出版もされます。

主催:ニッケ(日本毛織株式会社)  
後援:全国都道府県教育委員会連合会、(財)日本漢字能力検定協会、日本語文章能力検定協会、(社)全国高等学校文化連盟  
協力:全国官報販売協同組合

## 「第20回記念加古川マラソン大会」に単独協賛

ニッケは、生産拠点のある兵庫県加古川市が主催する国内有数のマラソン大会「加古川マラソン大会」に単独協賛しています。

同大会は1990年に始まり、年々、参加人数も増えております。2008年12月23日に行われた第20回記念大会には、全国から4,650人がエントリーし、日本陸連公認の河川敷コースでさわやかな汗を流しました。

今後も同大会を通じて、地域社会と皆様の健康に貢献したいと考えています。



## 「第3回ニッケPure Heartエッセー大賞/イラスト大賞」の実施



イラスト大賞 大賞「トリノキ」



ニッケでは、次代を担う若者を応援する文化支援事業として、2006年度から「ニッケPure Heartエッセー大賞/イラスト大賞」を実施しています。

2008年度のエッセー大賞は、「等身大のPure Heart」をテーマに「高校以上の部」「中学の部」の2部門で日本語エッセーを募集し、33,100作品の応募がありました。また昨年度同様、予備審査で選ばれた学生と特別審査員の乙武洋匡氏とのトークセッションが開催されました。

## 工場見学の実施

毛織物の国内有数の産地にある愛知県の一宮工場では、地元小学生の工場見学を受け入れています。2008年度の見学校は9校で、延べ1,168人が見学しました。

工場見学では、ビデオで工場の概要を紹介した後、羊の毛から毛織物ができるまでの工程を案内し、ものづくりの楽しさを体験いただいています。工場見学のお土産として持ち帰っていただくマスコットシープも好評です。

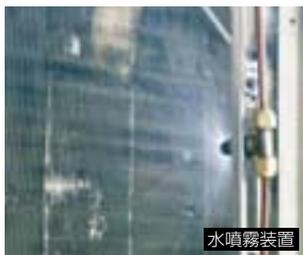


記念品のマスコットシープ

# ニッケグループ各社の取り組み

## ニッケ (日本毛織株式会社)

### 本社



水噴霧装置

3年計画で実施した省エネ型照明器具への更新とエアコンの室外機への水噴霧装置取付けが完了し、消費電力量および最大需要電力を低減。紙のリサイクル分別ボックスを設置し、分別意識を高めるとともにリサイクル率向上に努めました。

今後も設備更新を図りながら、グリーン購入の向上にも努めます。

### 神戸本店



地域の廃棄物処理制度に従いリサイクル向上に努めました。コピー用紙は再生紙の使用および可能な限り裏面の再利用を推進しました。

「チーム・マイナス6%」への参加意識の向上を図るとともに、室内空気循環の改善、空調機器のフィルター清掃による効率維持に努めました。

### 東京支社



「チーム・マイナス6%」への参加意識の向上を図るとともに、不要照明の消灯、空調設定温度の管理の徹底など省エネ対策に取り組みました。

廃棄物の削減に向け、コピー用紙の裏面利用や使用済みダンボールの再利用を実施し、資源保全活動にも努めました。

### 北海道営業所

ペットボトル・缶・ビン・段ボールなどの分別リサイクル、無駄なコピーの削減など資源保全対策を実施しました。

事務所照明の必要箇所のみ点灯、低消費電力タイプのコピー機導入など省エネ対策に取り組みました。

### 仙台営業所

休憩時間消灯、冷暖房管理徹底など省エネ対策を継続しました。またコピー用紙の再生紙使用、用紙裏面の利用も継続、ペットボトル、缶、ビンなどの分別も実施し、資源保全に取り組みました。

### 名古屋営業所

新聞・ダンボールは、地域の回収ルールに則ってリサイクルしました。コピー用紙の再生紙使用、社内用コピーの裏面利用のほか無駄なコピーを排除し、印刷枚数を削減しました。

また事務所エアコンの温度管理の徹底、不使用時の消灯にも取り組んだほか、外出・出張の際はなるべく公共交通機関を優先して利用するなどして、温暖化防止や資源保全、廃棄物削減、リサイクルに努めました。

### 広島営業所



地域の事業所分別リサイクルに対応する中で、使用済みペットボトルのラベル剥がし分別を新たに開始しました。

また環境省実施の「CO<sub>2</sub>削減／ライトダウンキャンペーン」に参加。キャンペーンホームページへの営業所名掲載、玄関ドアと応接室にキャンペーンポスターやステッカーを掲示してPRIに努めました。

### 九州営業所

コピー用紙裏面利用、コピー枚数削減、室温管理、不使用時消灯などの環境対策に取り組んだほか、ペットボトル・缶・ビン・新聞・ダンボールは地域の回収ルールに則り分別リサイクルしました。

2009年度も営業所独自に数値目標を設定して活動します。

### 印南工場

＜ユニフォーム素材・カーベットの製造＞

ISO14001 認証取得／2000年11月  
(登録証番号JMAQA-E156)



省エネ型洗絨・煮絨機の対応機種拡大、省エネ型変圧器(アモルフラス変圧器)への更新などを実施した結果、前年度比5.5%の省エネとなりました。

廃棄物では端絨や残糸を反毛原料としてリサイクル化し、廃棄物量を削減しました。また、一部を埋立処分していた排水処理汚泥は、全量をセメント原料化して最終処分

量の削減を推進しました。

製造工程では、精練工程の洗剤2品種をPRTR法対象外の洗剤に変更しました。

### 一宮工場

＜メンズ・レディースファッション素材を中心に製造＞

ISO14001 認証取得／2007年12月  
(登録番号 JMAQA-E724)



ドラム缶で購入していた梳毛油を入れる専用タンクと防油堤を新設し、地震による転倒や腐食による漏洩などへの防止策をとりました。

工程排水路については、経年劣化や地震などの災害による排水の地下浸透を防止するため、排水路の改修を進めました。

### 岐阜工場

＜ユニフォーム糸などの製造＞

ISO14001 認証取得／2001年10月  
(登録証番号 JMAQA-E234)



空調電力削減のため、既設エアコンに2段冷却システムを導入しました。また染色工程の一部では、染色時間の短縮による重油使用量の削減に取り組みました。

廃棄物では、副産品である床落くずのリサイクル化(RPF)と染料付ダンボールの再資源化による減量化を推進しました。

## ニッケコルトンプラザ

<ショッピングセンター>



断熱フィルムを施したガラス面

エネルギー、CO<sub>2</sub>削減のために、高効率冷温水機への更新とポンプのインバータ化を実施しました。またガラス面に断熱フィルムを貼り付けることで、冷房負荷を低減しました。

廃棄物対策では、分別による廃棄量削減に努めました。

## ニッケパークタウン

<ショッピングセンター>



緑化駐車場

空調機のファンモータにインバータを取り付け、モータ回転数を自動制御することで、年間約15万kWh以上の電力量の削減を計画しています。

また、2008年10月にオープンしたコナミ棟周辺には、環境に配慮した約100台分の緑化駐車場を導入しました。このような取り組みによって、ヒートアイランド現象の緩和に貢献します。

廃棄物対策では、分別による廃棄物削減に努めました。



## 衣料繊維製品部門

### 株式会社ナカヒロ

<衣料繊維製品の販売>

ISO14001 認証取得 / 2002年6月  
(登録番号 E465)

2008年度、本社事業所ではISO14001 認証を更新しました。当社は紙・ゴミの排出削減、電気の省エネをめざす活動を中心に、エコ素材、ノンハロゲン・ノンホルマリン製品の販売増大を目標に掲げて環境マネジメントシステムを運用・推進しています。

今後も環境配慮製品の拡販に努め、営業活動を通じたさらなる貢献をめざします。

### アカツキ商事株式会社

<衣料繊維製品の販売>

ISO14001 認証取得 / 2001年9月  
(登録番号 JSAE419)

ISO14001 を認証取得して8年目。①環境に配慮した製品の企画・販売 ②ユニフォーム製品の回収リサイクル ③省エネ、廃棄物の削減 ④グリーン購入推進を目標に、商社として特に①②に注力し、営業担当一人ひとりが日々提案し、その決定状況を記録しています。

2008年度、冷房設定温度を1°Cあげたほか、ノー残業デー拡大を目標に全社一丸となって活動しました。

### 佐藤産業株式会社

<衣料繊維製品の販売>

ISO14001 認証取得 / 2001年11月  
(登録番号 JE0129C)

本社事業所ではISO14001 定期審査を受審し、継続的に活動を続けています。

2008年度は、これまで廃棄処分していた織物原反の芯を返却することでリサイクルを促進しました。

また夏季はクールビズの推進で室温を26°Cから28°Cへ、冬季はウォームビズで20°Cから18°Cにエアコン温度設定を変更するなど、

地球温暖化防止に役立つ目標を掲げて活動しました。

### 大成毛織株式会社

<織物の製造>



廃油、残糸、紙くすなどの3R運動を積極的に進めるとともに、冷暖房機を中心に電力削減を計画的に推進しました。すでにスポットエアコンへの変更で大幅な節水と省エネを実現していますが、2008年度は空調ダクトに保温材を巻く工事を実施しました。

当社の名物は、社員全員による社内一斉除草運動です。環境保全だけでなく、コミュニケーションを通じて心の風通しも良くなっています。

### 弥富ウール株式会社

<毛糸の製造加工>



各工程で蛍光灯の部分消灯とブロック化を推進し、照明電力の削減に取り組みました。また廃棄物の分別に積極的に取り組み、リサイクル率の向上に努めました。

### 株式会社中日毛織

<織物の製造>

省エネ対策として事務所不要照明の消灯・空調管理の徹底、コピー用紙の裏面利用、ゴミ分別徹底に社員全員が取り組みました。

## 尾州ウール株式会社

<毛糸の製造>



2008年度は特に緑化推進に努め、山茶花や檜などの高木を20本植樹。メジロやムクドリなどが花芯をついばみに来るようになり、自然が身近になるのを感じました。このほかレッドロビンを200本植樹しています。

工場では、照明の配置見直し、省エネタイプへの取り替え改修によって年間16千kWhの電力量を削減しました。

### 日誠毛織株式会社

<毛糸の加工>



特に工場の緑化活動に取り組みました。敷地内の鳥居の周りに「竜のひげ」(ゆり科の常緑植物)を植え、事務所前には持ち寄った菊を株分けして植えたところ、花々が一面に咲きました。雑草対策にもなることから、今後も緑化活動を継続していきます。

### 揖斐ウール株式会社

<毛糸の加工>

電力削減策として、暖房器具運転時間の抑制や蛍光灯のこまめな消灯、空運転防止などの生産設備の効率運転に取り組みました。

ボイラの定期保全による燃焼効率の維持管理にも努めたほか、廃棄物削減では社員への環境教育を推進し、ゴミの分別収集を徹底しました。

# ニッケグループ各社の取り組み

## 金屋ニット株式会社

<ニット製品の製造・販売>



ボイラ室

熱効率を高めるためボイラを更新しました。A重油の年間使用量で前年比21.9%減少し、CO<sub>2</sub>排出削減に大きく貢献しました。また、製造工程での編地の裁断くずは、自動車資材として年間約11tを再利用業者に提供しました。

社内では、節水および昼休みの消灯、空調温度の管理など、身近なところから全員で環境保全に取り組みました。

## マルワイ吉田株式会社

<衣料繊維製品の販売>

コピー用紙の裏面利用の徹底、不要照明消灯の徹底、ゴミ分別の徹底に全社員が取り組みました。

今後は運送荷物を集約することで、CO<sub>2</sub>削減に少しでも役立つよう努力します。

## 株式会社キューテック

<繊維製品の縫製加工>

デマンド対策として、ECOモニターを設置して最大需要電力を172kwから159kwに低減。また一部のエアコンを省エネタイプに更新しました。

このほか接着プレス機を変更して電力使用量を半期で7.3%削減。コピー用紙の裏面利用、表・裏生地やロール紙の紙管のリサイクル、不要照明灯の消灯などにも取り組みました。

## 福島ソーイング株式会社

<繊維製品の縫製加工>

前年度に引き続き、分別廃棄、紙のリサイクル、コピー用紙の裏面利用、不要時のこまめな消灯、空調管理の徹底などに努めました。

## 株式会社ニッケビクター

<衣料繊維製品の販売>

事業特性からカタログやダンボールなどを多数使用していますが、不要になった場合は全てリサイクルにまわすことを徹底しました。

また、見本用に試作した毛糸を養護施設に寄贈し、活用いただきました。

## 稲沢ウール加工株式会社

<原料加工>

熱交換器を活用することで排水の廃熱を回収し、ボイラ給水(工業用水)温度を5℃アップさせました。

こうしたボイラ効率の改善などを通じて、CO<sub>2</sub>排出量の削減に取り組んでいます。

## 有限会社ニッカー宮サービス

<倉庫管理・運送>

事務所の空調温度を冷房28℃、暖房18℃に設定変更しました。

また運送トラックのアイドリングストップの徹底、資源ゴミと廃棄物の分別徹底に努めたほか、ガスボイラの燃料節減のために蒸気使用作業の集中化などに取り組んでいます。

## 繊維資材製品部門

### アンビック株式会社

<繊維資材製品の製造・販売>

ISO14001認証取得/2001年11月  
(登録番号 JQA-EM1898)



油水分離装置

廃油量削減と排水の水質向上のため、油水分離装置を導入して環境保全に努めました。設備や照明などの省エネタイプへの切り替え、不要な動力源の停止などを継続し、消費電力の削減を推進しました。

また、PRTR法該当物質であるノニルフェノール全廃に向けた取り組みも継続したほか、環境配慮型製品の開発・販売を積極的に推進しました。

### 日本フェルト工業株式会社

<繊維資材製品の加工>

空調用ガスヒートポンプの使用低減を図るため、管理温度を体感温度から室内温度に切り替え、夏季28℃、冬季23℃で管理しました。

また作業服を夏季は涼しいタイプ、冬季は暖かいタイプの着用を推奨し、ガス使用量で前年比3%の削減を実現しました。

### 株式会社ゴーセン

<テニス・バドミントンガット、釣糸、産業資材の製造・販売>

ISO14001認証取得/2005年4月  
(登録番号 JQA-EM4701)

化学繊維くずおよび紙くずの分別を徹底し、回収業者を通じたリサイクル活動を継続しました。また社有車1台をハイブリッドカーに切り替えました。今後、順次、切り替えを進めてCO<sub>2</sub>排出削減に努める計画です。

地域貢献活動としては、当社の天神工場前の道路が通学路となっていることから、通勤時間に社員交替で立ち番を実施し、子どもたちや社員に事故がないように努めました。



### ホクレン株式会社

<繊維資材の染色加工>

省エネのために生産機械の効率運転の実施、ボイラ設備の保全、こまめな消灯などに取り組みました。また紙使用量削減のために、パソコンを利用したペーパーレス化や直接FAX送信に努めました。

繊維くずは、リサイクル業者に委託して資源保全と廃棄物削減を推進。クリーン活動では、自社の清掃活動のほか工業団地の一斉清掃にも参加しました。

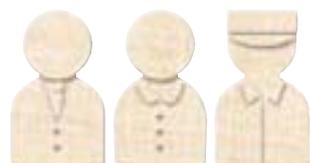
### ニッケ商事株式会社

<毛布・寝装用品の製造・販売>

2008年 秋冬物新作展示会から、ギフト商品を対象に再利用できる形状パッケージ、省資源簡易包装型パッケージ入りギフトの企画提案を推進しました。

今後も「省資源パッケージ」「捨てずに使えるパッケージ」の採用に努め、ギフト用化粧箱のゴミ減量とリサイクル向上に取り組めます。

事務所内では、照明の必要箇所のみ点灯、コピー用紙の裏面利用に取り組んでいます。



## 生活関連部門

### 株式会社ニッケレジャーサービス

<ゴルフ施設運営・管理>



お客様や近隣住民の方々にも配慮し、ゴルフコース全体の景観・美観を含めてクリーン活動に日々取り組みました。

落葉や折れ枝、ゴミの収集とともに、排水マスや側溝を清掃して排水機能の確保にも努めました。収集したゴミは分別し、市の許可を得て適切に処理しています。

### 株式会社ニッケインドアテニス

<テニス施設運営・管理>



電力監視  
モニター

使用電力を監視するシステムを導入。電力量の制御で、節電を習慣化しながら2.5~5.0%の電力量削減をめざしています。

また、ペットボトルのキャップを集めるエコ活動を実施。キャップ800個がゴミとして焼却されると6,300gのCO<sub>2</sub>が発生しますが、この800個で世界の子どもたちにポリオワクチンが届けられ1人の子どもの命が救えます。

### 株式会社ニッケゴルフサービス

<ゴルフ・スポーツ施設運営・管理>

樹木の剪定を従業員一丸となって実施するなど、引き続き癒しのゴルフ練習場「癒しの森」づくりに取り組みました。

落ち葉は樹木の根周辺に埋め戻して肥料に、また芝カスは堆肥として芝に戻すことで、化学肥料の使用を抑えるとともに、廃棄物を減量化しました。



### 株式会社ニッケ・ケアサービス

<介護事業>



5カ所の介護事業所で、コージェネを設置。廃熱再利用による省エネを推進しています。廃油リサイクル(給食センター・加古川)、コピー用紙裏面利用の徹底、不要照明消灯の徹底にも継続的に取り組みました。

### 双洋貿易株式会社

<馬具・乗馬用品の製造・販売>

環境保全への対応として、社用車をハイブリッド車に更新しました。また自治体が定めたゴミ分別ルールを徹底することや、不要な照明はその都度消灯するなど、できることから着実に全員で活動に取り組みました。

### ニッケペットケア株式会社

<ペット用品の製造・販売、ペットフードの輸入販売>



ペットフード「ファーストチョイス」のリニューアルに合わせて、

パッケージのエコ包装化を図りました。事務所では不要照明の消灯、コピー用紙の裏面利用、グリーン購入対象品の優先購入を継続しました。

### 株式会社ジーシーシー

<携帯電話販売>

給与明細も含めて書類を極力、紙(FAXなど)からeメールなど電子データでやりとりして、紙資源の削減に取り組みました。

### ニッケアウデオSAD株式会社

<菓子小売>

社内連絡の90%をeメール化。各種書面もスキャナ等を多用した電子化でペーパーレス化を促進しています。店舗では、ゴミの分別徹底や電気・水道使用量の削減に努めました。

### 株式会社ニッケ・アミューズメント

<飲食・カラオケ施設運営・管理>



新規オープン居酒屋「鶏口牛後」では、繰り返し使用できる塗箸を導入。プライベートでも、マイバッグ持参運動をアルバイト社員含む全スタッフに拡大して、明るく楽しく長続きするエコ活動推進に努めました。

### 株式会社ニットファミリー

<生命保険代理業>

空調機の稼働台数と運転時間を制限して、電力使用量を低減させました。また、自治体ルールに従った分別の徹底により、廃棄物の削減にも取り組みました。

## 不動産部門

### ニッケ不動産株式会社

<住宅などの建設・販売、不動産管理事業>

廃棄物の削減では、地域のルールに従いながら、コピー用紙裏面の利用、紙類の分別排出に努めました。

空調管理は「チームマイナス6%」に準じながら、空調機器フィルター清掃による効率維持に努めました。

### 株式会社アルファニッケ

<不動産賃貸事業・スーツ販売>

エコネットワーク登録企業として、年2回の下取り期間を設定。スーツお買い上げのお客様からは古着を回収するサービスを実施するなど、リサイクルを通じた環境保全に取り組みました。

## エンジニアリング部門

### 株式会社ニッケ機械製作所

<機械設計・製造・販売>

ISO14001認証取/2004年11月(登録番号 162023)



当社製品事業部では、機械部品の製造が増え、消防法の対象となる危険物貯蔵量が増加していました。そこで、環境リスクおよび安全管理上、2008年度に「少量危険物貯蔵取扱所」を新設し、有機溶剤・アルコールなどを安全に貯蔵・管理する体制としました。施設内の整理・整頓(4S)も推進し、危険物の漏洩がないことを日々確認しています。

# ニッケグループ各社の取り組み

## 株式会社システム開発

<機械設計・製造・販売>

分別収集を「PPC用紙」「雑誌・カタログ」「ダンボール」まで拡大しました。分別収集しているペットボトルのキャップは、エコキャップ推進協会を経由して、発展途上国の予防ワクチンの購入に役立っています。

新設の作業場と本社間の移動には、新たに自転車を導入することで、自動車利用と比べてCO<sub>2</sub>削減を図っています。

## 株式会社テクシオ

<電子・電気計測器、制御装置の設計・製造・販売>

ISO14001認証取得/2005年2月  
(登録番号 ECO4J0460)

「回生機能付充電装置」の開発を進めています。電池放電試験時の放熱エネルギーは、これまで熱に変換されていましたが、回生機能を備えることで、ほかの機器で使用可能な電気エネルギーに変換できます。

たとえば電気自動車用大型電池の開発では、熱を冷却する冷房エネルギーを削減できるとともに、装置自体の回生機能と併せてCO<sub>2</sub>排出削減に大きく貢献できると考えます。

## 海外事業所

### 日毛(上海)貿易有限公司(SNK)

<中国国内をはじめとする海外向け毛糸・織物の販売>

コピー用紙の裏面利用や枚数削減によって、資源保全と廃棄物削減に努めました。またメモ用紙には、保存が不要な書類を使用し対応しました。このほか社員の健康管理のために、喫煙場所を固定し分煙を継続しています。

### 青島日毛紡織有限公司(QNK)

<毛糸の製造>

ISO14001認証取得/2008年12月  
(登録番号 UO6608EO220ROS)



暖房用温水の循環装置

エアコンをノンフロン・省エネ型に更新して、冷房効率を向上させました。また蒸気暖房から温水循環式暖房への切り替えを実施。これによりボイラ燃料は、年間約36tが削減できます。

組織体制では、施設環境管理部および省エネ委員会を新設し、現地スタッフを中心に省エネ・環境保全に取り組みました。

標語の掲示、改善の募集と実施、教育資料発行と社員教育の実施など、成果は着実に上がっていると考えます。

### 江陰日毛紡績有限公司(JNS)

<毛糸の製造・販売>

第2工場で、冷凍機の更新(蒸気使用)、空調キャリア送風ファンのインバータ取り付けなどを実施。

さらに運転効率のアップに努めた結果、電気エネルギー原単位は、前年の4.17kWh/kgから4.10kWh/kgに、また蒸気は2.35t/tから2.01t/t となりました。

### 江陰日毛印染有限公司(JND)

<色トップの製造>

工程合理化と省エネ対策を積極的に進め、無駄の徹底排除対策を講じました。この結果、エネルギー対前年原単位では、電力10.1%、蒸気11.2%、用水31.2%がそれぞれ減少しました。

なお地元自治体が発した清潔生産審査(環境負荷度合いの審査)で、当社は中国国内で先進技術企業と判定されました。

### 青島日毛織物有限公司(QNF)

<織物の製造加工>

糸入荷によって発生するダンボール、製造で発生する糸くず・生地断片・薬剤ケース、事務所から出る紙類のリサイクルを実施。用済みコピー用紙の裏面使用、工場周りの緑化も実施しました。

### NIKKE PORT PHILLIP SCOURING PTY., LTD. (NPS)

<原料加工>



クラリファイヤー

当地オーストラリアでは、昼夜の寒暖差が大きいため、工場内結露防止用ファンを2機使用しています。うち1機を状況に応じて停止させ、電力削減に努めました。夏季には、昼間の消灯も実施しました。

またオーバーフロー水削減のために、洗毛機への給水状態を直視できるように配管を新設。排水リサイクルのために、クラリファイヤーの導入を検討しています。

### 江陰安碧克特種紡織品有限公司(JAF)

<繊維資材製品の製造加工>



天井の低層化

製造工程での空調電力削減と照明効率化を図るため、天井の高さを約80cm低層化するとともに光沢あるアクリル板を使用。電灯の追加なしに照度を高め、節電だけでなく製品検査の精度向上にもつながりました。

### 安碧克(香港)有限公司社

<繊維資材製品の販売>

創業したばかりですが、今後、不要な照明の消灯、コピー用紙の裏面利用、空調管理の徹底などに取り組んでいきます。

### 上海高織製紐有限公司

<繊維資材製品の製造>

ISO14001認証取得/2004年3月  
(登録番号 01 104 031654)

コピー用紙の裏面利用、不要時の工場内全面消灯を継続。コピー機で使用されている垂鉛などの有害物質は、専門業者でリサイクル。原糸くずのリサイクル化にも努めました。

### 德士計測儀器(香港)有限公司

<電子・電気計測器、制御装置の設計・製造・販売>

不要照明の消灯、エアコン温度の管理による電気使用の最少化による省エネに取り組みました。コピー用紙の裏面利用による紙使用の最少化、社外封筒の再利用、電子コピーの利用による省資源に取り組みました。

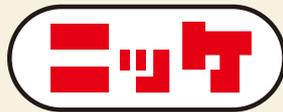
また運搬の際、プラスチック製でなく自然素材の布バックの使用、プリンターカートリッジの政府のリサイクル活動への参加などの活動に取り組みました。

### 德士計測儀器(深圳)有限公司

<電子・電気計測器、制御装置の設計・製造・販売>

不要な照明の消灯、エアコン温度管理の徹底による電気使用量の削減、コピー用紙の裏面利用、社外封筒の再利用、電子コピーの利用、運搬の際の布バック使用などを推進しました。





〒541-0048 大阪市中央区瓦町三丁目3番10号  
Tel.06(6205)6600 Fax.06(6205)6684

<http://www.nikke.co.jp>

### 「日本毛織」から「ニッケ」へ

「日本毛織株式会社」は通称社名「ニッケ(NIKKE)」を採用し、経営理念である人と地球に「やさしく、あったかい」企業グループを目指して第一歩を踏み出します。

創業110余年を経て、繊維主体の会社から、事業複合体への変革を進める中で、守るべき歴史を忘れないように、「日本毛織」の正式社名は残し、変革の中での遠心力と求心力を失わないようにグループ全体のシンボルとして、通称社名を「ニッケ(NIKKE)」とします。



### 表紙イラストについて

「ニッケPure Heart イラスト大賞」  
第3回(2008年)

大賞「トリノキ」

作者:Chiku Chikuさん(千葉県)

大地に根をはる木がいつか羽根を得て、ボクらの街ものせてもらえる大きな鳥になる夢をイメージしました。

※ 表紙の原画は、少し色を抑えて掲載しました。



みんなで止めよう温暖化  
チーム・マイナス6%



このカタログの印刷は、環境にやさしい  
植物性大豆油インキを使用しています。



古紙配合率100%再生紙を使用